

令和 2 年 5 月 21 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02038

研究課題名（和文）西アフリカの女性による創発的組織活動：マリのシアバター生産共同組合による地位変容

研究課題名（英文）West African Women's emergent organizational activities: Malien Sea Butter Cooperatives and its Contribution for Changing Women's status

研究代表者

園部 裕子（SONOBE, YUKO）

香川大学・経済学部・教授

研究者番号：20452667

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：西アフリカのマリでは2000年代以降、綿花価格の大幅下落など主要産品をとりまく状況、貧困の拡大、都市部への人口集中などから、農村女性が現金収入手段を多様化させる必要に迫られた。家庭的な需要のために各個人が行ってきたシアバターが、2000年代以降「改良バター」生産の導入とともに組織化され、協同組合を通じてマリ各地の女性に普及した。この生産方法によりシアバターの質は改善され市場価格も上昇した。その結果、女性の現金収入が増加し、収入減少をみていた男性とのジェンダー関係においても変化があった。また協同組合メンバーから村落議会が選出されるなど、地域社会における女性の政治的地位の向上にもつながっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本ではフランス語圏アフリカについての研究そのものが少ない中で、とくに女性を対象とする調査研究は稀少であり、同時にマリそのものを扱う研究も非常に限られている。マリ社会においては、シアバター生産の協同化は、女性の地位向上につながる手段になっている。マリは2016年の人間開発指数は世界182カ国のうち175位に留まっている。グローバル経済により大きな打撃を受けた途上社会の女性の地位向上のために、女性みずからの協同活動がどのようなインパクトをもつのか、考察を加えることに本研究は寄与する。

研究成果の概要（英文）：Mali's one of main commodities, cotton, has marked a significant decline in its price since the 2000s. This leads to poverty spread in the rural area and the urbanization of population has been accelerated. These significant economic and social changes have motivated rural women to diversify their means of cash income to sustain households. Rural women are involved in many types of economic activities in which shea butter production have been historically women's monopoly. Some producers commenced organizing into collective associations through which they jointly produce and expand the method of "ameliorated better." This newly introduced method has contributed to obtain a better quality of the final product so that women's income increased enough to compensate male husbands' income decrease. We additionally located several cooperatives which had their member women elected as a representative in the village council to promote the status of women.

研究分野：社会学

キーワード：アフリカ 女性 ジェンダー 協同組合 創発的活動 シアバター

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

西アフリカ諸国では、1980年代までの干ばつや債務超過、それに続く構造調整計画 (Structural Adjustment Program) の導入により、国家サービスが後退し、外部機関による支援や国内外の市民団体の役割が増した。それとともに女性による組織も増加し、経済的・社会的役割は増したものの、女性の社会的地位が承認されたとはいえない (Bonnassieux 2014)。

熱帯スーダンの北端に自生する常緑の小高木シア (*Vitellaria Paradoxa*, バンバラ語名 S□, フランス語名 karité, 英名 Shea Tree) は、地球上で西アフリカの当該地域にのみ自生するが、その実からバター (油脂) を精製する役割は、伝統的に女性だけが担ってきた。女性は代々その製造法を伝授し、バターは食料や薬品などさまざまに利用されてきた (日本貿易振興機構 2005)。18~19世紀に当該地域の旅行記を記した *Mungo Park* (Park 1980)、*René Caille* (Caille 1979) 1979) からも、現在のマリ南東部付近におけるシアの分布や女性によるバター精製とその利用について記録している。

ヨーロッパ諸国は、すでに植民地支配の過程でシアとシアバターに注目していた。フランス植民地政府の農業担当 (Vuillet 1911)。当時からカカオなどの代替油脂、蝋燭に使用するなど、その利用価値の高さが認められてきた。近年では日本を含む工業国において安全、安心を求める消費者意識の高まりにより、「自然な」、「エコロジックな」植物に注目が集まるなか、化粧品産業もシアバターを使った商品売り出すようになっている cf. (Chalfin 2004), (Saussey 2011a)。現地の生産者らの収入を上げるには加工品の売買が望ましいが、現状では、多くの仲介商が安価な実を買い集め、油脂を化学精製する日欧の少数の企業が世界市場を独占している (FAO and CFC 2004)。

これらのシアバター生産についての先行研究には、ガーナのシア流通過程研究 (Chalfin 2004)、ブルキナ・ファソを扱った Elias や Saussey らの一連の研究 (Elias and Carney 2004, Saussey 2011b) などあるが、マリの事例を扱う学術論文は Sidibé らによる 2 論文 (Sidibé 2012, Sidibé et al. 2014)、Biquard (1992) などしかない。日本ではナイジェリア、ガーナを扱った農業研究者による報告 (日本貿易振興機構 2005) があるものの、社会科学分野の研究はほとんどない。応募者が 2014 年 8~9 月にかけてマリで行った予備的な聞き取りによると、シアの実の生産において、マリはナイジェリアについて世界第二位であるにもかかわらず、協同組合の組織化が始まったのは 2000 年頃からであり、マリよりも生産高の低いブルキナ・ファソよりも後発であることが明らかになっている。また、Sidibé らが事例とする協同組合以外にも、女性たちが自発的に結成した組合が各地に結成されている。から、Sidibé らの調査はマリの協同組合を網羅的に扱っているとはいえず、また の点についても分析は加えられていないことが分かっている。

いずれにしろ日本ではフランス語圏アフリカについての研究そのものが少ない中で、とくに女性を対象とする調査研究は稀少であり、同時にマリそのものを扱う研究も非常に限られていることから、さらなる研究が必要とされている分野であるといえる。

## 2. 研究の目的

西アフリカでは女性による創発的な非営利組織が増加しつつあるが、女性の経済的・社会的地位は、社会開発において鍵となる (Tinker 1990)。マリでは女性の間でシアの実からのバター精製方法が伝えられてきたが、2000 年代以降は生産組合の結成により現金稼得の手段となり、それとともに女性の地位も向上しつつある。「エコロジック」な側面から世界の化粧品産業にも注目され、貧困対策のため、マリ政府も政策的に後押ししている。本研究では、マリの女性によるシアバター生産共同組合の活動を調査し、労働実態を明らかにすることから、創発的な協働活動 (大林他編 2014) が女性の経済的・社会的自立性にどのような効果をもたらし、世帯内・村落社会における女性の地位をどう変容させるのかを分析する。

## 3. 研究の方法

文献資料をもとにした理論面の整理およびマリにおける現地調査を中心に、シアバター生産組合による創発的協働の実態と、女性の地位の変容を明らかにする。

理論面の課題： マリ中部において女性の地位を規定する単位 (世帯、親族、村落、組合) の把握、女性による創発的組織化とその社会的役割、女性の地位についてケイパビリティと自由の理論からの考察

現地調査の課題： マリのシアバター生産組合のマッピング、家庭内における伝統的生産と生産組合での共同作業における作業内容・役割・収入の比較による実態把握、生産組合への参加による、世帯内および村落社会における女性の役割の変容

## 4. 研究成果

本調査を着想後に現地の政治社会状況が一段と深刻な事態になり、大きな制約の下で研究を行うことになった。基礎的研究として文献研究を継続しつつ、調査時期を見計らうこととしたが、3年の間にはそれ以前と異なる要因で社会情勢が不安定化したこともあり、実質的にマリ現地における調査を行うことは不可能となった。そこで本研究の開始前年に行った予備的調査をもとに文献収集と分析を行うこととしたが、それでも全体的には調査の進捗は着想時の予想までには至らなかった。

まず、本研究と調査対象が重なる先行研究を中心に、マリ社会とその発展についての文献から以下が明らかになった。マリ南部の首都近郊におけるバンバラ人社会を対象とする事例研究(Wooten 2009, Wooten 2003)は、植民地期にヨーロッパ人の食文化が持ち込まれ需要が生じた野菜などの菜園作物をめぐる社会変容について記述している。それによれば 1970 年代以降に首都人口の増加と食料などの新たな需要の増加にともない、近郊農村において首都向けの菜園作物生産の開始や薪の需要増など、経済活動の変化がみられたことが分かった。これらの地域は、シアの木の分布地域と重なっており、シアバター生産者の居住地域でもあるため、都市人口の増加にともなう社会的・経済的变化がシアバターの生産と需要にどう影響したのかを知る手がかりになると考えられる。Wooten は一つの村で調査を行っており地理的な範囲は限られるが、菜園作物の需要増により、女性が使用していた村落の外に位置する耕作地を男性が囲い込んで首都圏市場向けの菜園として開発するようになり、畑から締め出された女性がその他の収集活動(木の実や薪の収集・販売を含む)へと経済活動を移行させている。



他方で、マリ南部ではおもな一次産品として綿花の栽培が盛んであるが、とりわけ 2000 年代前半には綿花価格は大幅に下落し、1995～2001 年にかけて半減し、2009 年にかけて低い水準が続いていた。その結果、農村部で絶対的貧困層の割合が増加するなど経済状況が悪化していた。他方で、1990 年代後半から年率 3%前後の人口増が続いており、同時期に貧困削減政策が行われていたにもかかわらず(Gonin and Kotlok 2012)、2016 年の人間開発指数は世界 182 カ国のうち 175 位に留まっている(Le Programme des Nations Unies pour le Développement 2016)。マリ南部における本研究の予備的調査からは、とくに綿花栽培の盛んな Sikasso 地域において、女性たちがシアバター生産のために協同組合を組織するようになった原因として、綿花価格の下落による男性の収入減が挙げられている。

以上のように、グローバル経済下においてマリ主要産品をとりまく状況、またそこから部分的に帰結する農村部の貧困の拡大、そしてさらに都市部への人口集中といった複合的な経済社会的状況から、農村部の女性が現金収入の手段を多様化させる必要に迫られていたことが明らかになる。その際、かつては家庭的な需要のために各個人が行ってきたシアバターが、折からの「改良バター-beurre amélioré」生産方法の紹介・導入とともに、組織的に取り入れられ、協同組合への参加を通じてマリ各地の女性に普及するようになったと言える。

こうしたシアバター生産と協同組合の参加は、女性の自発的なとりくみとして起こり、盛んになっている。例えば予備調査から、上記の首都近郊バンバラ人居住地で活動する協同組合 A についてみると、A は地域の中核都市に事務所をおき、そこから約 20 キロ圏内の約 30 の各村の女性が、1つの村につき1つ～3つまでの小グループを結成して、グループ代表を A に送り込むかたちで参加している。その結果、地域全体では総計して 1250 名の女性が A に参加していた。マリ南部地域でも中核都市に協同組合の本部がおかれ、周辺の村から参加女性がメンバーとして加入し代表を送り込むかたちで組織化されていることも分かった。

こうした 2000 年代以降の組織化と、協同組合による改良バター生産方法の普及により、シアバターの質は改善されたという。また、伝統的な製法では雨季に収集したシアの実を、いったん果肉を取り除いて核にした状態で、土中に保存するなどして、畑作業の繁忙期である雨季を避けて乾期にバター生産に取り組んでいた。その方法では土中で核が腐敗するなどにより、できあがるバターの質(臭いや味、色など)はさまざま安定していなかった。改良バターにより核の状態が協同組合が保管できるようになったために最終的な製品の質も改善され、安定するようになったという。このようにしてバターそのものの質が高まったことにより、市場における価格も上昇したことが各地で証言された。

こうした女性によるバター生産の組織化と改良の結果、女性達の現金収入も増加し、同時に収入減少をみていた男性とのジェンダー関係においても、世帯内で男性が一人で決定していた事柄に対して女性たちは意見を言えるようになったと証言している。そうしたジェンダー関係の

変容により子どもの教育、とくに少女への教育の意義も見直されるようになってきているという。また、複数の協同組合が村落議会にメンバーを立候補させ、実際に議員に選出された女性も複数いることから、地域社会における女性の政治的地位の向上にもつながっていることが分かる。

以上のようにマリ社会においては、シアバター生産の協同化は、女性の地位向上につながる手段になっており、「女性・子ども・家族担当」責任者も、シアバター生産を女性支援の主要軸に位置づけている。

こうしたマリにおける重要性から、2018年からはシアバター生産者への開発支援プロジェクトがアフリカ開発銀行など外部機関の支援もえて開始されており、支援元は複数化、多国籍化していることも明らかになった。このプロジェクトは本報告書の執筆時点でも進行しており、その社会的インパクトがどのようなものとなるのかも、今後は加味する必要がある。

本研究の成果として、以上の文献調査と予備調査の結果をまとめる論文を執筆中である。現各地の協同組合を基点に、各村における参加女性の世帯の状況についてもさらに踏み込んだ調査を行うことは、今後の課題として残っているため、引き続き現地情勢を見極めつつ、今後もテーマの研究を続ける必要がある。

#### 【参考文献】

- 大林稔・西川潤・阪本公美子編、2014『新生アフリカの内発的發展：住民自立と支援』昭和堂  
日本貿易振興機構、2005「西部アフリカ油脂加工産業育成プログラム」ナイジェリア・ガーナのシアバター現地調査報告書」51p.
- Biquard, Anne. 1992. "Femmes et innovation technologique : pertes sans profit : l'exemple du beurre de karité (Mali)." In *Relations de genre et développement : femmes et sociétés*, edited by Pinton F. (ed.) Bisilliat Jeanne (dir.), Lecarme M. (ed.), 169-185. Paris: ORSTOM.
- Bonnassieux, Alain. 2014. "L'implication croissante des femmes dans les organisations collectives en Afrique : des impacts inégaux." In *Genre et savoirs : Pratiques et innovations rurales au Sud*, edited by H. et M. Saussey Guétat-Bernard. Paris: IRD édition.
- Caillé, René. 1979. *Voyage à Tombouctou*. Vol. Tome 1 et 2: La Découverte.
- Chalfin, Brenda. 2004. *Shea Butter Republic: State Power, Global Markets, and the Making of an Indigenous Commodity*: Routledge.
- Elias, Marlène, and Judith Carney. 2004. "La filière féminine du karité : productrices burkinabè, « éco-consommatrices » occidentales et commerce équitable." *Cahiers de Géographie du Québec* 48 (133):71-88.
- Gonin, Patrick, and Nathalie Kotlok. 2012. Migrations et pauvreté : essai sur la situation malienne. *CERISCOPE Pauvreté*, 2012, [en ligne]. Accessed consulté le 16/10/2018.
- Le Programme des Nations Unies pour le Développement. 2016. *Rapport sur le développement humain 2016: Le développement humain pour tous*. New York: UNDP.
- Park, Mungo. 1980. *Voyage dans l'intérieur de l'Afrique*: La Découverte.
- Saussey, Magalie. 2011a. "« Le barattage des savoirs » Circulations des ressources et apprentissages des artisanes burkinabè dans un contexte de mondialisation." *Revue d'anthropologie des connaissances* 5 (2011/3):551-572.
- Saussey, Magalie. 2011b. "Les organisations féminines au Burkina Faso : limites et paradoxes des dispositifs de valorisation d'un produit local, le beurre de karité."
- Sidibé, A. ; Vellemaa, S. ; Dembeléb, F. ; Traoréb, M. ; Kuyperc, T.W. 2012. "Innovation processes navigated by women groups in the Malian shea sector: How targeting of international niche markets results in fragmentation and obstructs co-ordination."

*NJAS - Wageningen Journal of Life Sciences* 60-63:29-36.

- Sidibé, A., S. Vellema, F. Dembélé, B. Témé, H. Yossi, M. Traoré, and T. W. Kuyper. 2014. "Women, shea, and finance: how institutional practices in a Malian cooperative create development impact." *International Journal of Agricultural Sustainability* 12 (3):263-275. doi: 10.1080/14735903.2014.909640.
- Tinker, Irene. 1990. *Persistent Inequalities : Women and World Development*. New York & Oxford: Oxford University Press.
- Vuillet, Jean-François (inspecteur général d'agriculture coloniale). 1911. "Le Karité et ses produits." In. Paris: É. Larose. <https://catalogue.bnf.fr/ark:/12148/cb31610615f>.
- Wooten, Stephen. 2003. "Women, men, and market gardens: gender relations and income generation in rural Mali." *Human organization*:166-177.
- Wooten, Stephen R. 2009. *The Art of Livelihood: creating expressive agri-culture in rural Mali*. Carolina Academic Press Durham, NC.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----